



International Day for the Total Elimination of Nuclear Weapons

26 September

背景

世界的な核軍縮の実現は、国連にとって最も古くからある目標のひとつです。それは 1946 年の総会における最初の決議のテーマであり、決議に従って創設された原子力委員会は、原子力の管理と、核兵器およびその他のあらゆる主要な大量破壊兵器の廃絶に関する具体的な提案を行う権限を持ちました。以来、国連は数々の主要な外交的取り組みの最前線に立ってきました。1959 年、総会は全面的かつ完全な軍縮という目標を承認しました。1978 年にはさらに進んで、第 1 回国連軍縮特別総会において、核軍縮を最優先目標とすべきことが確認されました。歴代のすべての国連事務総長が、この目標を積極的に推進してきました。

しかし、今も 1 万 6,000 発以上の核兵器が存在しています。核保有国は潤沢な資金を充当した長期計画を持ち、核兵器を近代化しています。世界人口の半数以上が依然として、核保有国、もしくはそうした国の核の傘に依存する国で暮らしています。2014 年現在、配備されている核兵器の数は、冷戦の最中と比較すると大幅に減少しましたが、条約に則って物理的に廃棄された核兵器はひとつもありません。また、現在進行中の核軍縮交渉もありません。その一方で、核抑止力理論は、すべての核保有国とその多くの同盟国の安全保障政策における一要素であり続けています。

近年、核軍縮が進まないことに対して、加盟国間で不満が高まりつつあります。こうした不満は、地域規模や世界規模の核戦争はいうまでもなく、わずか 1 発の核兵器が人類にもたらす壊滅的な結果への世界的な懸念が高まるとともに、ますます注目を集めるようになってきています。

こうした現実を受け、総会は 9 月 26 日を「核兵器の全面的廃絶のための国際デー」に指定しました。この日は、国際社会が最優先事項として世界的な核軍縮へコミットすることを再確認する機会を提供するものです。また、核兵器の廃絶による真のメリットと、核兵器の保有を続ける社会的・経済的コストについて、国民を（そして指導者を）啓蒙する機会にもなります。国連においてこの国際デーを記念することは、加盟国が地球規模に及ぶ点と、国連が核軍縮問題に長らく取り組んできた点を考慮すると、非常に意味のあることです。国連は、人類の最大の難題のひとつに取り組み、核兵器のない平和で安全な世界を実現するのにふさわしい場なのです。

総会決議 68/32 に則って、この国際デーは、核兵器が人類に及ぼす脅威と、核兵器の全面的廃絶の必要性に関する社会の認識を高め、教育を充実させることにより、核兵器の全面的廃絶という目標を推し進めることを目指します。その際、こうした活動が、この共通の目標の実現に向けて、国際努力を新たに結集する一助となることが期待されます。この点に関してその進捗状況を検討するため、総会は核軍縮に関するハイレベル会合を、2018 年までに招集することを決定しました。